

立間川流域の治水対策に向けて

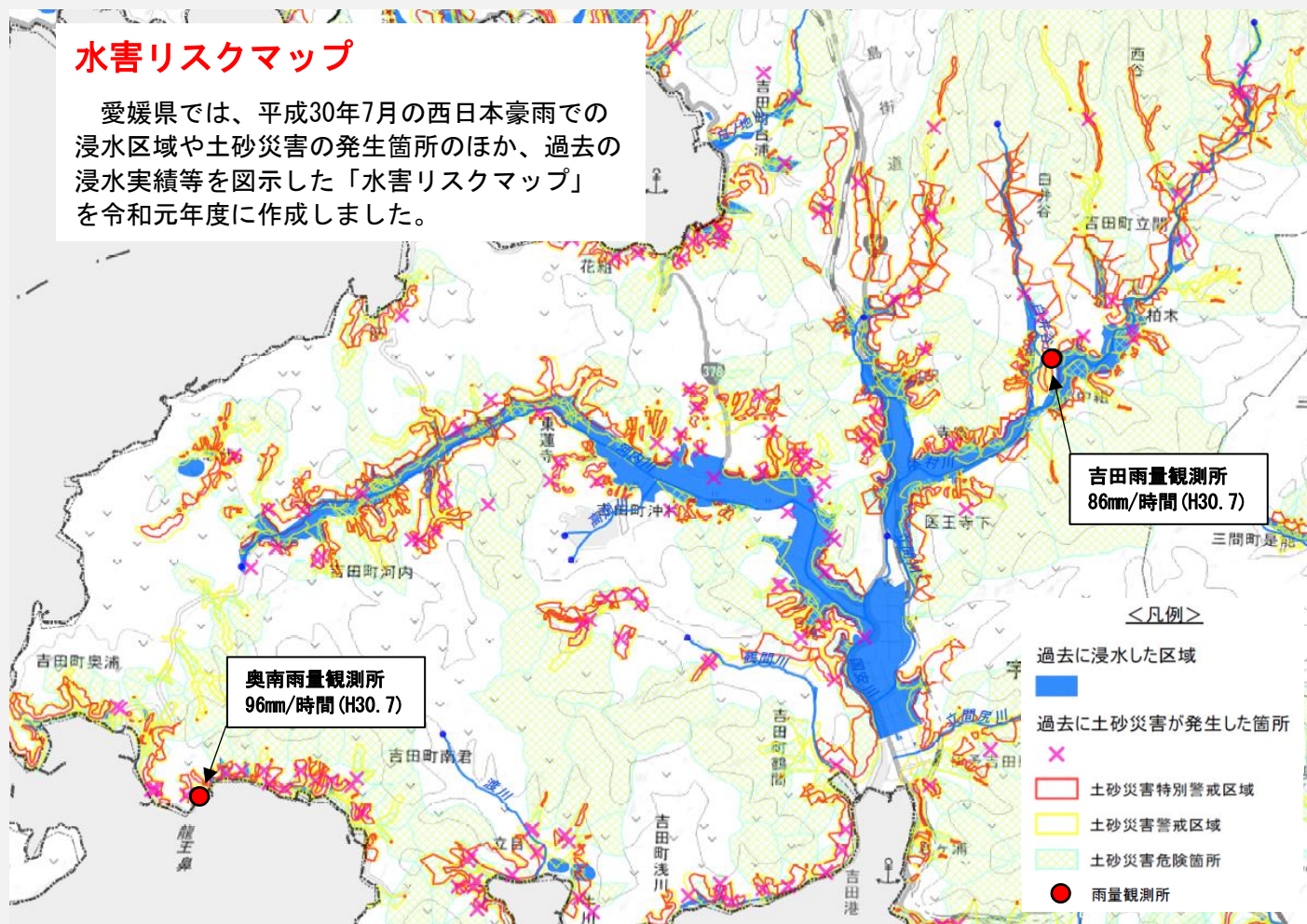
愛媛県 南予地方局 河川港湾課

宇和島市吉田町の中心部を流れる立間川の流域は、平成30年7月の西日本豪雨で甚大な浸水被害に見舞われました。

近年、気候変動の影響で豪雨が激甚化、頻発化しており、従来の治水施設（堤防や護岸等）では到底防ぎきれない規模の洪水が発生し、全国各地で大規模な水害が多発しています。

愛媛県では、治水施設の能力を越える洪水に対して、いかに浸水被害を軽減させるかに重点をおいて、立間川流域の治水対策を検討しております。

① 西日本豪雨の雨はどうだったの？



平成30年7月7日の状況

※宇和島市建設課等から提供いただいた写真を掲載しています。
「→」は河川の流下方向を表示しています。



河内川（喜佐方公民館前）



国道378号（御殿内地区）



河内川（御殿内地区）



国安川（吉田支所前）

② 立間川の周辺って・・・

西日本豪雨では、人口と資産の集中する中心市街地で多くの床上・床下浸水が発生しました。

この中心市街地の成り立ちは、江戸時代前期に、吉田藩の初代藩主（伊達宗純）が吉田湾の河口を埋め立てて、陣屋町を造成したことがはじまりです。また、高度経済成長期の頃から多くの大型公共事業が行われ、御殿内地区では宅地化も進みました。

文久元年(1861年)

昭和22年(1947年)

昭和50年(1975年)

平成30年(2018年)



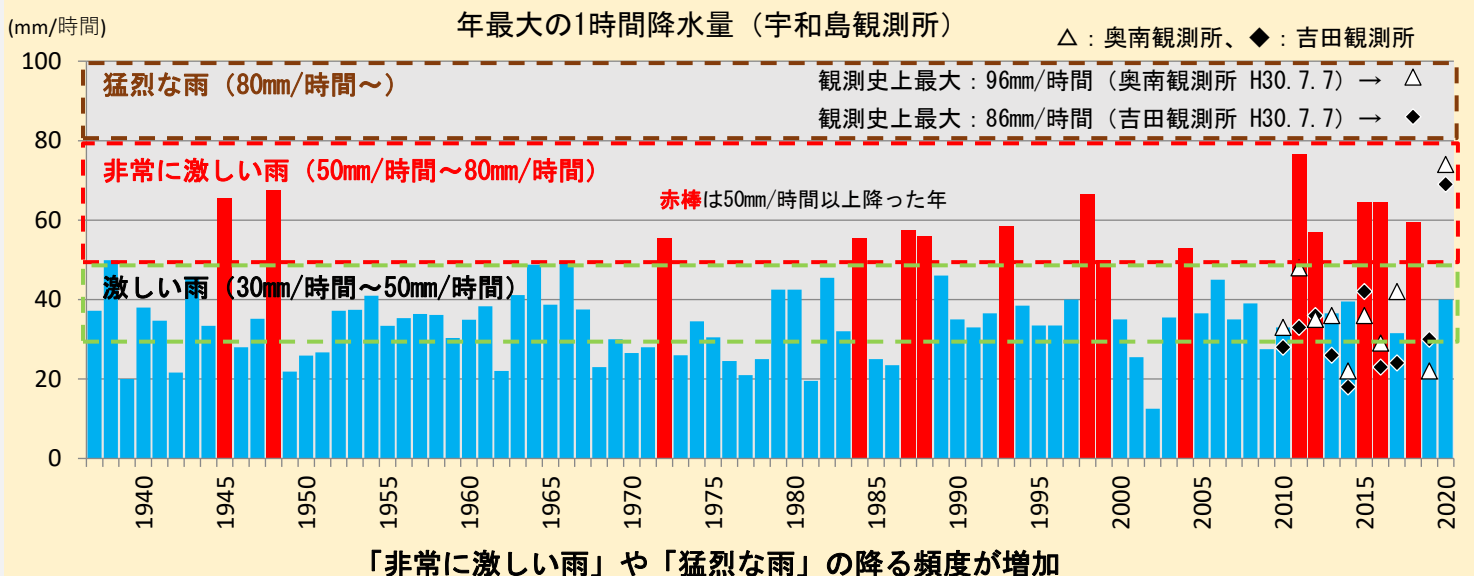
1660年頃
河口の埋め立て、国安川
と横堀（立間川）の開削
→陣屋町の造成

昭和38年～ 国道56号改良工事（昭和47年 吉田町内区間 供用開始）
昭和38年～ 河内川改修工事（昭和47年 防潮水門 完成）
昭和43年 中学校 統合
昭和51年 吉田公園 竣工

【吉田市街図 提供：宇和島市教育委員会】【航空写真 出展：国土地理院地図の空中写真（1947年, 1975年, 2018年）】

③ 最近の雨って・・・

近年、局地的な短時間豪雨の発生頻度が増加しています。短時間豪雨の前後の降水量にもよりますが、「非常に激しい雨」や「猛烈な雨」が降ると、河川が氾濫する危険性が高まります。



棒グラフは気象庁の宇和島観測所のデータをもとに作成しています。なお、吉田町の降水量は、愛媛県が設置した吉田町内の雨量観測所で観測が開始された年以降の値を表示しています。

④ 河川の工事って・・・

河川に流れ込む雨水の量が一定量を超えると、堤防や護岸の低い場所から溢れはじめ、堤防が決壊した場合には、更に大きな被害が発生します。

一般的に、治水対策では下表に示すような方法がありますが、立間川流域では、断面拡幅やボトルネック解消といった方法が効果的と考えており、現在、詳細な検討を進めているところです。

河川改修のイメージ

| 対策方法 | 断面拡幅 | ボトルネック解消 | ダム・遊水地 | 放水路 |
|-------|---|---|---|---|
| イメージ |  |  (立間川 桜橋) |  (須賀川ダム) |  |
| 特徴 | 河川の拡幅、河床の掘り下げ、堤防整備で断面を広げ、洪水時の流れを改善する。 | 流下阻害の要因となる横断工作物(橋梁)を改築し、洪水時の流れを改善する。 | 洪水を一時的に貯留する施設を整備し、下流への流量を低減させる。 | 洪水を分流させる人工水路(トンネル等)を整備し、下流への流量を低減させる。 |
| メリット | 下流からの拡幅により、整備途中でも治水効果が確実に発現する。 | 横断工作物の改築により、上下流の治水安全度が大きく向上する場合がある。 | ダム下流で、大きな河川改修を必要としない。 | 放水路下流で、大きな河川改修を必要としない。 |
| デメリット | 用地買収が必要な場合、事業完了までに多大な時間と費用を要する。 | 橋梁を改築する場合、周辺の道路や土地利用に影響がある。 | 自然および社会への影響が大きい。 | 自然および社会への影響が大きい。 |

河床掘削については、立間川流域の県管理の全河川で継続して実施



対策のイメージ

パラペット整備等
特殊な堤防等による断面拡幅



防潮水門
パラペット整備に合わせて改築



営繕前橋(統廃合等)



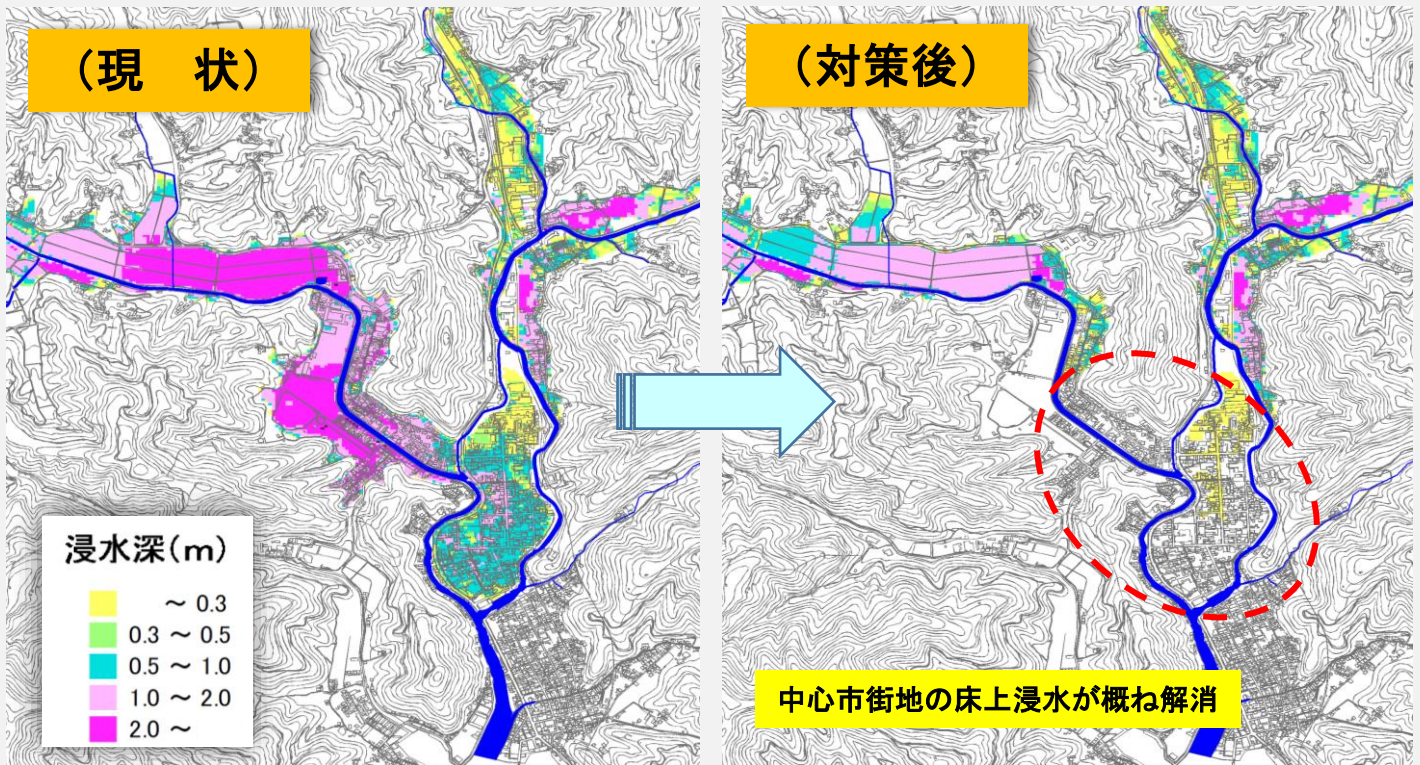
石神橋(統廃合等)



⑤ 治水対策でどう変わるの？

愛媛県では、西日本豪雨と同規模の雨が降った場合においても、前述の河川改修を行うことで、中心市街地の浸水被害を大きく軽減できるよう検討を進めているところです。

浸水軽減シミュレーションのイメージ



※河口の水位は潮位の影響を受けるため、大潮の満潮を想定して解析しています。また、内水氾濫による浸水は考慮していません。

西日本豪雨では、内水氾濫や土石流等による河川の土砂埋塞も重なって、甚大な浸水被害につながった場所もありましたので、河川改修と並行して、内水排除対策や土砂災害防止対策を実施し、総合的に流域治水を行うことが必要になります。愛媛県では、浸水被害の軽減に向けて、宇和島市と連携して流域治水対策に取り組んで参りますので、ご理解とご協力をお願いします。

また、治水対策の実施により浸水被害は軽減されますが、水害をゼロにすることはできません。雨の降り方によっては、西日本豪雨を上回る浸水が発生する可能性もあります。災害から大切な命を守るために、身の回りの危険箇所と避難場所を日頃から確認しておき、豪雨が予想される場合は、気象情報に注意するとともに、宇和島市が発令する避難情報に従って、安全な場所に早めに避難することを心がけてください。

現在、立間川流域の治水対策について、詳細な検討を進めております。計画案ができましたら、皆様にお知らせしますので、今後とも、ご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

問い合わせ先

愛媛県 南予地方局 建設部 河川港湾課 災害グループ (担当：酒井, 高見)
〒798-8511 愛媛県宇和島市天神町7-1
電話：0895-22-4831
電子メール：nan-kasenkowan@pref.ehime.lg.jp



浸水軽減シミュレーションの詳細図は、南予地方局河川港湾課のホームページに掲載しています。

🔍 南予地方局河川港湾課

検索



がんばってます! 南予